

ヤマギシリフォーム工業株式会社



技能士の社会的評価がもっと高まってほしい

「塗装」の歴史とともに歩んだヤマギシリフォーム工業株式会社の山岸社長は、東京都塗装工業協同組合の理事長などを歴任、業界の発展にご尽力されてきました。ご自身でも1級建築施工管理技士などの資格を持ち、技術専門校での講師も務め、現場を熟知し、技能の重要性を理解する経営者です。



ヤマギシリフォーム工業株式会社
代表取締役社長 山岸純一氏

当社は、塗装をはじめ改修工事施工を重点事業とする専門工事会社です。初代山岸が創業したのは嘉永年間、創立は大正6年ですから今年で創立93年になります（会社設立は昭和22年）。

マンシヨンの大規模修繕工事などの改装・改修をメインの事業としており、社員は約1000名、現在建築塗装技能士は1級が4名、2級が2名おります。その他防水施工関係で数名おりますので、技能士は延べ10名ほどです。

職人を社員として直接雇用していた形から協力会社への外注中心へと転換を図ったため社内の技能士は減っているのが現状ですが、技能を持った入タツプを一定数保持していなければいけないという意識はあります。

私は東京都塗装高等技術専門校で講師をした経験もありますが、当社でも新入社員はそこへ入校させて基本的な技能を身につけてもらいます。

技能検定については、1回目の受検料は会社が負担し、合格すれば1年間手当を支給することになっています。最近では女性の受検者も増えていますが、社内では技能士が増えるのは喜ばしいことだと思っていますが、技能者の社会的地位の向上が図られなければならぬといはかねがね思っていました。

技能士の評価が建築施工管理技士*といった国土交通省の資格ほどではないのは少々残念な気持ちもあります。技能を持った人間は、現場を管理する立場からいっても役立つわけですから、

社会的評価として管理技士と同じようなレベルになればもっとプラスになるのではないのでしょうか。

当社では、1級、2級合わせて30数名の建築施工管理技士がおりますが、1級施工管理技士のように技能士についても一定以上の規模の現場には必ずいなくてはならないとか（法的にルールづけするのが必ずしもよいとは思いませんが）、なんらかの地位向上策が講じられてもよいでしょう。せつかく腕を磨いているわけですから、もう少し報われてもよいのでは、と思いますね。

当社はマンシヨンのなどの大規模改修工事の仕事が多いのですが、比較的小規模の戸建て住宅の現場などでは、管理技士と技能士と両方の資格を持っていると非常に強いのではないのでしょうか。

ですから、技能士の社会的認知を上げていくためにわれわれ自身でも盛り上げていきたい。

例えば、技能五輪などでも「建築塗装」職種を入れてもよいのではないかと思いますね。

* 建築施工管理技士：国土交通省が実施する、建設業法第27条に基づく技術検定「建築施工管理技術検定試験」により、「建築一式工事の実施に当たり、その施工計画及び施工図の作成並びに当該工事の工程管理、品質管理、安全管理等工事の施工の管理を適確に行うために必要な技術」が検定される。合格すると「施工管理技士」を称することができ、一般建設業、特定建設業の許可基準の一つである営業所ごとに置く専任の技術者、建設工事の現場に置く主任技術者及び監理技術者の有資格者として認められ、経営事項審査における技術力の評価において計士する技術者数にカウントされる。

自分の評価が会社の評価に

1級建築塗装技能士である齋藤さんは、長年塗装の仕事に従事され、今年度建設マスター（優秀施工者国土交通大臣顕彰者）としても顕彰されたベテランです。



ヤマギシリフォーム工業株式会社
品質管理部 齋藤松江氏
(1級建築塗装技能士)

私は塗装職人として35年以上働いてきました。ヤマギシでは先代からお世話になり、現在は品質管理部に所属しています。

入社時は技能士資格を持っていませんでしたが、何か免許のようなものがあつたほうがよいと思い、平成3年に1級建築塗装の技能検定を受け、合格しました。

受検前に2日間ほど塗装組合で講習を受けましたが、現場で培ってきたもので十分対応できた感じですね。

「技能検定のための勉強を」というよりは、基本的に現場で勉強して身につけたものが検定でも通用するというか、生かせるのだと思います。

やはり技能検定を受けてよかつたと感じるのは、仕事においてお客様の対応が違ってくるからです。例えば、改善の提案などをする場合、それまではこちらの話を受け流していたような場面でも耳を傾けて聞いてくれるようになったりする。

1級技能士というと、仕事の専門家と認めてくれるのでしょね。

また、嬉しいことに私への指名で仕事の依頼がくることもある。もちろん私の技能そのものを認めてくださって依頼されてくるわけですが、技能が公

的に証明されることの利点はやはりあるのだと思います。

今は若手に対して指導、アドバイスなどもしていますが、塗装業界も技術の変化や高度化が激しくて、材料にしても昔とは様変わりしている部分もある。ついていくのはなかなか大変ですが、一度身につければ必ず役に立つ基本技能というものもあるわけです。身につけようと努力するかどうかは個人のやる気、意識の持ちようによりますが、やればやっただけの見返りはあると思うので、技能の向上を怠らずに仕事をしていってほしいですね。

そして、技能者というのは自分の評価が会社の評価になる部分が大変大きい。「自分のために仕事をする」というのが、みんなのため、会社のためにもなるんです。自分の目標に向かっていけば会社のために役立つている。それは技能者冥利に尽きるのかもしれない。



ヤマギシリフォーム工業株式会社

本社所在地 ● 東京都品川区南品川4-2-36

代表取締役社長 ● 山岸純一

創業 ● 嘉永年間 / 創立 ● 大正6年3月

設立 ● 昭和22年3月 / 資本金 ● 1億円

建設事業許可種目 ● 建設、土木、塗装、防水、大工、とび・土工、屋根、タイル・れんが・ブロック、鋼構造物、舗装、内装仕上、水道施設、管、左官、石、鉄筋、板金、ガラス、熱絶縁、建具

営業種目 ● 集合住宅改修工事（外壁改修工事、各種防水工事、鉄部塗装工事、内部改修工事、設備関連工事、調査・診断業務）、商業施設改修工事（外壁改修工事、設備関連工事）、官公庁関連施設改修工事（橋梁鉄骨・鋼橋塗装工事、建築関係総合改修工事）等